



Madhat Kakei

2025

7/2 (水) - 28 (月)

10:00-16:00 月曜休館 (7/28は開館) 観覧無料

角田山妙光寺客殿

新潟市西蒲区角田浜1056 TEL.0256-77-2025

同時期開催

マドハット・カケイ展

7/2 (水) - 15 (火)

11:00-18:00 (最終日-17:00) 会期中無休 観覧無料

新潟絵屋

新潟市中央区上大川前通10-1864 TEL.025-222-6888

Madhat Kakei (マドハット・カケイ)

1954年イラク・キルクーク生まれ。バグダッドとマドリードのサン・フェルナンド美術アカデミーに学ぶ。イラク・イラク戦争の最中、軍から山岳地帯に逃れ、のちスウェーデンに滞在し、同国市民権を獲得。86年の初来日後、千葉、クルディスタン、ストックホルム、フランスのクルタレンのアトリエで制作。アラビアンネームの「モハメッド・M・アリ」名で発表していた。洲之内徹「さらば気まぐれ美術館」にも同名で登場する。2002、07、13、23年新潟絵屋で、2023年砂丘館で開催。https://www.madhatkakei.se/



マドハット・カケイ
1970年代のドローイングを中心に

深海魚の夢

1980年に始まるイラク・イラク戦争に従軍し脱走したマドハット・カケイは山岳地帯での数年を経てスウェーデンに亡命した。戦争前の日記の連作ドローイングDay Bookは、当時の彼がいかに不安と恐怖に震えていたかをなまなましく伝える。絵以外のことをあまり話さない男の過去を絵が語るのだ。

2会場で開催される今回のマドハット展ではDay Bookと同時期に描かれたドローイング20点を妙光寺に展示する。

1980年代半ばに来日した彼は多くの知人や理解者に恵まれ、筆先からは人間への共感と愛をにじませる人物画があふれ出た。それにやや遅れて現在まで続く多色を単色の向こうに洗める「モノクローム」シリーズの制作が始まる。

新潟絵屋で紹介するそれは、一見シンプルな、モダニズム的作品に見間違われがちだが、粗々しい身体の圧をきざむ表面、向こう側の目に見えぬ色や絵の具の厚みのうねりを感じとれるようになるにつれて、日本、イラク、スペイン(学生時代)の日々にまで連なる、数奇な画家の生きた時の光と影が融け、血となつてめぐっていることが実感されてくる。寡黙な深海魚の孤独と激しさ、叫びと感情、希望、夢、抵抗。それらはすべて1970年代のドローイングの裡に息をしていた。

主催 新潟絵屋 協力 角田山妙光寺

大倉宏